



トラステッドリレーポイント (TRP) の設定

- [トラステッドリレーポイントの概要 \(1 ページ\)](#)
- [トラステッドリレーポイントのタスクフロー \(2 ページ\)](#)
- [トラステッドリレーポイントの連携動作と制限事項 \(7 ページ\)](#)

トラステッドリレーポイントの概要

トラステッドリレーポイント (TRP) は、Cisco Unified Communications Manager がメディアストリームに挿入してコールメディアの制御ポイントとして機能する MTP またはトランスコーダです。TRP は、ストリームに対してさらなる処理を提供し、ストリームが特定のパスに従っていることを確認できます。

コールにトラステッドリレーポイントが必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP 機能で有効になっている MTP またはトランスコーダを割り当てます。

構成

MTP およびトランスコーダは、[メディアターミネーションポイントの設定] または [トランザクションの設定] ウィンドウの [トラステッドリレーポイント] チェックボックスをオンにすることによって TRP 機能を提供するように設定できます。

個々のコールの TRP 要件を設定するには、次の設定ウィンドウの [トラステッドリレーポイントを使用する] フィールドを [オン] に設定します。

- 電話の設定 (Phone Configuration)
- ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)
- ボイスメールポート設定 (Voicemail Port Configuration)
- トランクの設定 (Trunk Configuration)
- CTI ルートポイントの設定 (CTI Route Point Configuration)
- 共通デバイス設定 (Common Device Configuration)

- ユニバーサルデバイステンプレートの設定 (Universal Device Template Configuration)
- さまざまなメディアリソースの設定 (アナンシエータ、IVR、MTP、トランスコーダ、会議ブリッジ、保留音)

トラステッドリレーポイントのタスクフロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	デバイスのトラステッドリレーポイントの設定 (3 ページ)。	メディアが終了し、TRP をCisco Unified Communications Managerに挿入する1つまたは複数のデバイス向けの、トラステッドリレーポイント(TRP)を設定します。
ステップ 2	メディアターミネーションポイントのトラステッドリレーポイントの設定 (3 ページ)。	デバイスをトラステッドリレーポイントとして使用できるように、メディア終端ポイント (MTP) を設定します。 (注) Cisco Unified Communications Manager で TRP として設定されたデバイスについて、その TRP とコールに関連したすべてのエンドポイントの間に適切なネットワーク接続および設定が存在することを確認する必要があります。
ステップ 3	トランスコーダに対するトラステッドリレーポイントの設定 (4 ページ)。	デバイスをトラステッドリレーポイントとして使用できるように、トランスコーダを設定します。 (注) Cisco Unified Communications Manager で TRP として設定されたデバイスについて、その TRP とコールに関連したすべてのエンドポイントの間に適切なネットワーク接続および設定が存在することを確認する必要があります。
ステップ 4	トラステッドリレーポイントのサービスパラメータの有効化 (5 ページ)。	TRP サービスパラメータを有効にして、どのTRP リソースも利用できない場合、

	コマンドまたはアクション	目的
		TRP を必要とするコールを続行できるかどうかを判断します。

デバイスのトラステッドリレーポイントの設定

メディアの終端である 1 つまたは複数のデバイスのトラステッドリレーポイント (TRP) を設定したり、Cisco Unified Communications Manager に TRP を挿入できます。デバイスの TRP を設定することによって、デバイスは、そのストリームでさらに処理を実行したり、ストリームが特定のパスをたどっていることを確認できます。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] の順に選択します。
- ステップ 2 既存デバイスのトラステッドリレーポイントを設定するには、[共通デバイス設定の検索と一覧表示 (Find and List Common Device Configurations)] ウィンドウから、適切なフィルタを指定して [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 3 新規デバイスのトラステッドリレーポイントを設定するには、[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウから、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 4 [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウのフィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 5 [共通デバイス設定情報 (Common Device Configuration Information)] セクションで、[トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] チェックボックスをクリックします。
- ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

[メディアターミネーションポイントのトラステッドリレーポイントの設定 \(3 ページ\)](#) .

メディアターミネーションポイントのトラステッドリレーポイントの設定

デバイスをトラステッドリレーポイント (TRP) として利用できるようにメディアターミネーションポイント (MTP) を設定できます。

始める前に

[デバイスのトラステッドリレーポイントの設定 \(3 ページ\)](#) 。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration で、[メディア リソース (Media Resources)] > [メディア ターミネーション ポイント (Media Termination Point)] を選択します。
- ステップ 2** 既存のメディアターミネーションポイントに TRP を設定するには、[メディアターミネーションポイントの検索と一覧表示 (Find and List Media Termination Points)] ウィンドウから、該当するフィルタを指定し、[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 3** 新しいメディアターミネーションポイントに TRP を設定するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 4** [メディアターミネーションポイントの設定 (Media Termination Point Configuration)] ウィンドウで各フィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 5** [メディアターミネーションポイント情報 (Media Termination Point Information)] セクションで、[トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

[トランスコーダに対するトラステッドリレーポイントの設定 \(4 ページ\)](#) .

トランスコーダに対するトラステッドリレーポイントの設定

トラステッドリレーポイント (TRP) としてデバイスを使用できるようにトランスコーダを設定できます。

始める前に

[メディアターミネーションポイントのトラステッドリレーポイントの設定 \(3 ページ\)](#) 。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration で、[メディア リソース (Media Resources)] > [トランスコーダ (Transcoder)] の順に選択します。
- ステップ 2** 既存のトランスコーダに対する TRP を設定するには、[トランスコーダの検索と一覧表示 (Find and List Transcoder)] ウィンドウから、該当するフィルタを指定し、[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 3** 新しいトランスコーダに対して TRP を設定するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 4** [トランスコーダの設定 (Transcoder Configuration)] ウィンドウで各フィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

ステップ 5 [メディア サーバ トランスコーダ情報 (Media Server Transcoder Info)] セクションで、[トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

[トラステッドリレーポイントのサービスパラメータの有効化 \(5 ページ\)](#) .

トラステッドリレーポイントのサービスパラメータの有効化

TRP サービスパラメータを有効にすると、TRP リソースが使用できない場合に、TRP を必要とするコールの続行を許可するかどうかを決定できます。

始める前に

[トランスコーダに対するトラステッドリレーポイントの設定 \(4 ページ\)](#) .

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。

[サーバ (Server)] ドロップダウンリストのみが表示されます。

ステップ 2 [サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、[サーバ (Server)] ドロップダウンリストからサーバを選択します。

[サービス (Service)] ドロップダウンリストが表示されます。

ステップ 3 [サーバ (Server)] ドロップダウンリストから、Cisco Unified Communications Manager サーバを選択します。

選択されたサーバおよびサービスに基づいて、サービスパラメータが表示されます。

ステップ 4 [クラスタ全体のパラメータ (デバイス - 全般) (Clusterwide Parameters (Device - General))] セクションから、[トラステッドリレーポイントの割り当てが失敗するとコールは失敗する (Fail Call If Trusted Relay Point Allocation Fails)] ドロップダウンリストの [True] を選択します。

フィールドとその設定オプションについては、「関連項目」のセクションを参照してください。

ステップ 5 [クラスタ全体のパラメータ (デバイス - H323) (Clusterwide Parameters (Device - H323))] セクションから、[MTP の割り当てが失敗するとコールは失敗する (Fail Call If MTP Allocation Fails)] ドロップダウンリストの [True] を選択します。フィールドとその設定オプションについては、「関連項目」のセクションを参照してください。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

MTP と TRP サービスパラメータが選択されている場合のコールステータス

エンドポイントの[メディアターミネーションポイントが必須(Media Termination Point Required)] チェックボックスと [トラステッドリレーポイントを使用(Use Trusted Relay Point)] チェックボックスの両方がオンになっている場合、Cisco Unified Communications Manager は、信頼されたりレーポイント (TRP) でもあるメディアターミネーションポイント (MTP) を割り当てます。管理者がこのような MTP または TRP の割り当てに失敗すると、コールステータスが表示されます。

次の表に、コールが失敗した場合の **Fail Call If Trusted Relay Point Allocation Fails** サービスパラメータおよび **Fail Call if MTP Allocation Fails** サービスパラメータの値を備えたコールステータスを表示します。

Fail Call If TRP Allocation Fails	Fail Call If MTP Allocation Fails	コールが失敗するか
True	True	はい
True	False	はい
False	True	はい (MTP が H.323 エンドポイントに必要な場合)。いいえ (MTP が SIP エンドポイントに必要な場合)
False	False	×

MTP と TRP サービスパラメータが選択されていない場合のコールステータス

Fail Call If Trusted Relay Point Allocation Fails サービスパラメータおよび **Fail Call If MTP Allocation Fails** サービスパラメータがいずれも **False** に設定されている場合、以下の表には、必要な MTP に関連するコールの動作を示します。動作に関するものは、[信頼されたりレーポイントを使用(Use Trusted Relay Point)] の設定、およびリソース割り当てのステータスです。

[メディアターミネーションポイントが必須(Media Termination Point Required)]	[信頼されたりレーポイントを使用(Use Trusted Relay Point)]	リソース割り当てのステータス	コールの動作
Y	Y	TRP 割り当て済み	パススルーのサポートが存在しないため、オーディオコールのみ。
Y	Y または N	MTP のみ	オーディオコールのみ。TRP のサポートは存在しません。

[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)]	[信頼されたりレーポイントを使用(Use Trusted Relay Point)]	リソース割り当てのステータス	コールの動作
Y	Y または N	割り当てなし	H.323 エンドポイントで [メディアターミネーションポイントが必須(Media Termination Point Required)] チェックボックスがオンになっている場合、補足サービスは無効になります。
N	Y	TRP 割り当て済み	エンドポイントの機能に応じてオーディオまたはビデオコール、およびコールアドミッション制御 (CAC)。補足サービスは引き続き機能します。
N	Y	割り当てなし	オーディオまたはビデオコール。補足サービスは引き続き機能しますが、TRP のサポートは存在しません。

トラステッドリレーポイントの連携動作と制限事項

トラステッドリレーポイントの連携動作と制限事項

機能	連携動作と制限事項
Resource Reservation Protocol (RSVP)	コールで RSVP が有効になっている場合、Cisco Unified Communications Manager はまず、TRP のラベルも付いている RSVPAgent を割り当てようとしています。それ以外の場合は、別の TRP デバイスが RSVPAgent とエンドポイントの間に挿入されます。

機能	連携動作と制限事項
コールのトランスコーダ	トランスコーダがコールに必要であり、それを TRP を必要とするエンドポイントと同じ側に割り当てる必要がある場合、Cisco Unified Communications Manager はまず、TRP のラベルも付いているトランスコーダを割り当てようとします。それ以外の場合は、別の TRP デバイスがトランスコーダとエンドポイントの間に挿入されます。
エンドポイントのMTP割り当て	エンドポイント向けに、[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)]チェックボックスおよび[トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]チェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager は、TRP を兼ねる MTP を割り当てます。管理者がそのようなMTPまたはTRPの割り当てに失敗すると、コールの状態が表示されます。
TRP 割り当て	ほとんどの場合、TRP はユーザがコールに応答した後に割り当てられるため、TRP の割り当てに失敗したためにコールが失敗すると、ユーザがコールに応答した後に速いビジー トーンが聞こえる可能性があります (MTP が必要な SIP アウトバウンドレグ、つまり H.323 アウトバウンド FastStart は例外です)。
エンドポイントのTRP挿入	エンドポイントまたはデバイスに関連付けられているデバイス プールのいずれかで、[トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]チェックボックスをオンにした場合、Cisco Unified Communications Manager はそのエンドポイント向けに TRP を挿入する必要があります。[トラステッドリレーポイントの割り当てに失敗した場合コールを失敗させる (Fail Call If Trusted Relay Point Allocation Fails)]サービス パラメータが、 True に設定されている場合、Cisco Unified Communications Manager が TRP の割り当てに失敗すると、コールが失敗することがあります。
TRP とリモートユーザー	在宅リモートユーザーからの作業に安全なソリューションを提供するためには、TRP はお勧めしません。Expressway のモバイルおよびリモートアクセスが推奨されるソリューションです。

トラステッドリレーポイントの制限事項

表 1: トラステッドリレーポイントの制限事項

制限事項	説明
エンドポイント向けトラステッドリレーポイントの挿入	エンドポイントまたはデバイスに関連付けられているデバイスプールのいずれかで、[トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] チェックボックスをオンにした場合、Cisco Unified Communications Manager はそのエンドポイント向けに TRP を挿入する必要があります。[トラステッドリレーポイントの割り当てに失敗した場合コールを失敗させる (Fail Call If Trusted Relay Point Allocation Fails)] サービスパラメータが、 True に設定されている場合、Cisco Unified Communications Manager が TRP の割り当てに失敗すると、コールが失敗することがあります。
エンドポイント向けメディアターミネーションポイントの割り当て	エンドポイント向けに、[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスおよび [トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] チェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager は、TRP を兼ねる MTP を割り当てます。管理者がそのような MTP または TRP の割り当てに失敗すると、コールの状態が表示されます。
トラステッドリレーポイントの割り当て	ほとんどの場合、TRP はユーザがコールに 응답した後に割り当てられるため、TRP の割り当てに失敗したためにコールが失敗すると、ユーザがコールに 응답した後に速いビジートーンが聞こえる可能性があります (MTP が必要な SIP アウトバウンドレグ、つまり H.323 アウトバウンド FastStart は例外です)。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。